



河  
南  
府

ル 4
4992
4



阿久乃神社

阿久乃村にあり延喜式に出る。今住吉明神と改む。

芥川古城

右月村にあり古跡と今も城垣内とよ。貞和の康女の頃まで芥川右馬亮に居し三河守のあつし始り。永正

年中三好希聖第二男孫右郎長則の據り希雲の細川高国を殺され長則の洛の百萬遍に殺れ其子孫十郎の據り天文廿二年八月長慶とれと孫次郎儀典とれと守り細川六郎織田七兵衛土岐山城守又とれ據り

松永彈正久秀故居

東五百住村にあり

鴨神祠

赤小路村にあり例祭土月朔日

津江薬師

津江村にあり本尊瑠璃光佛の行基の作する靈驗あり毎月十二日近郷より群集あり

唐崎

芥川の下にあり此地に近郷の諸荷物運送の場あり同屋商家あり

若宮祠

唐崎村にあり祭神八幡春日ニ島江の社の名を宮なりとい



三嶋江

川波也

波とやき

ち

芦の角

猿錐



河花

春霞とてあ

かこやほのまの

ほのみやまの

ほのむらさき

若心頼家





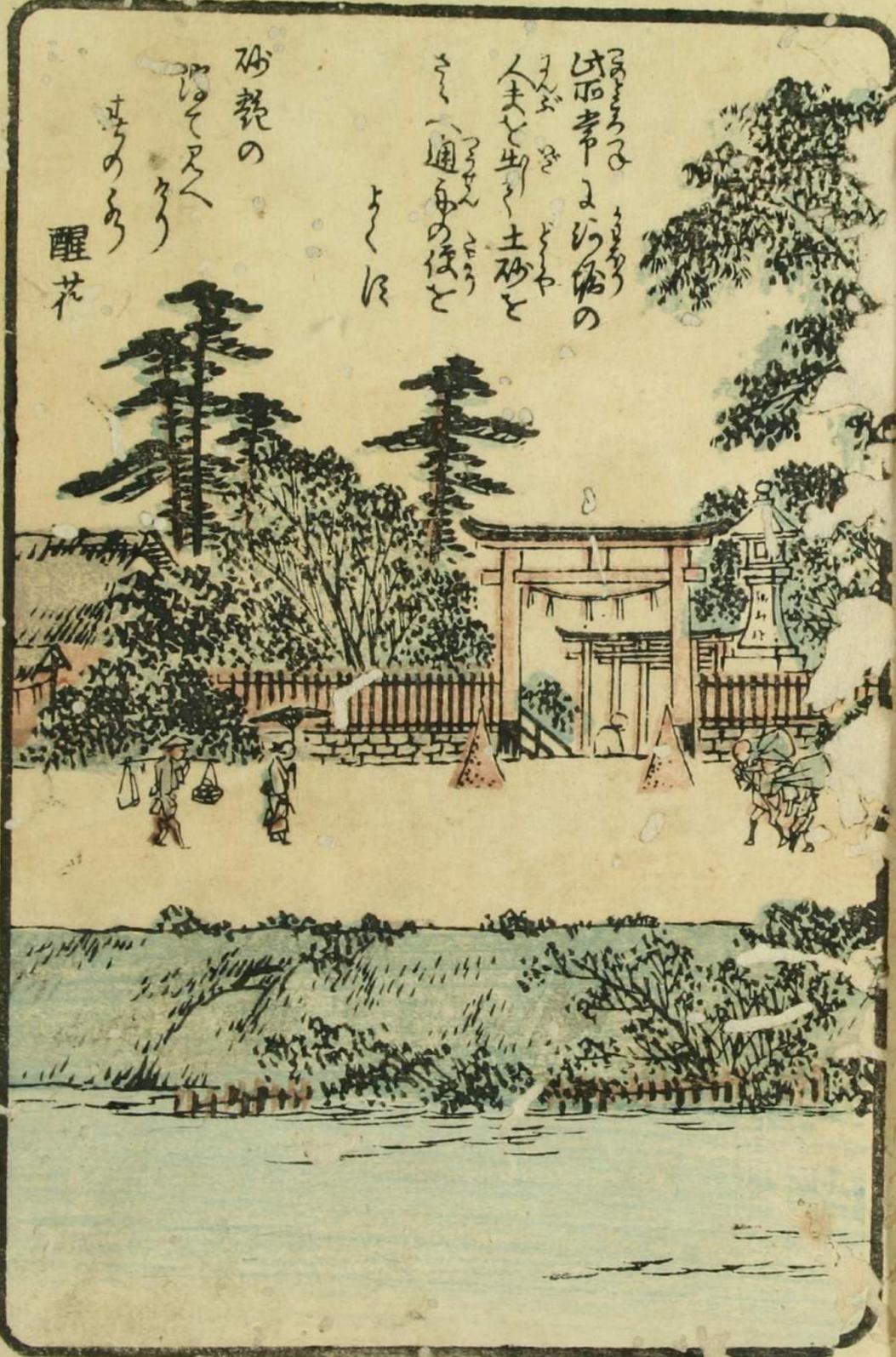
柱本  
稻荷祠

稲荷のついで  
霊験ありとてまじり  
まはるとして平生  
もた燈籠さとの奇附  
人多し



は雨常より俗の  
人夫と出り土砂と  
きく通舟のほと  
よくは

砂籠の  
まのり  
醒花



鳥飼

藤杜神社

西村の間に一里の余  
あり  
生土神社の西村より  
ついで西の妻の社と

又



はつ子の池の  
人まど  
さく水陸  
柱切

波門や

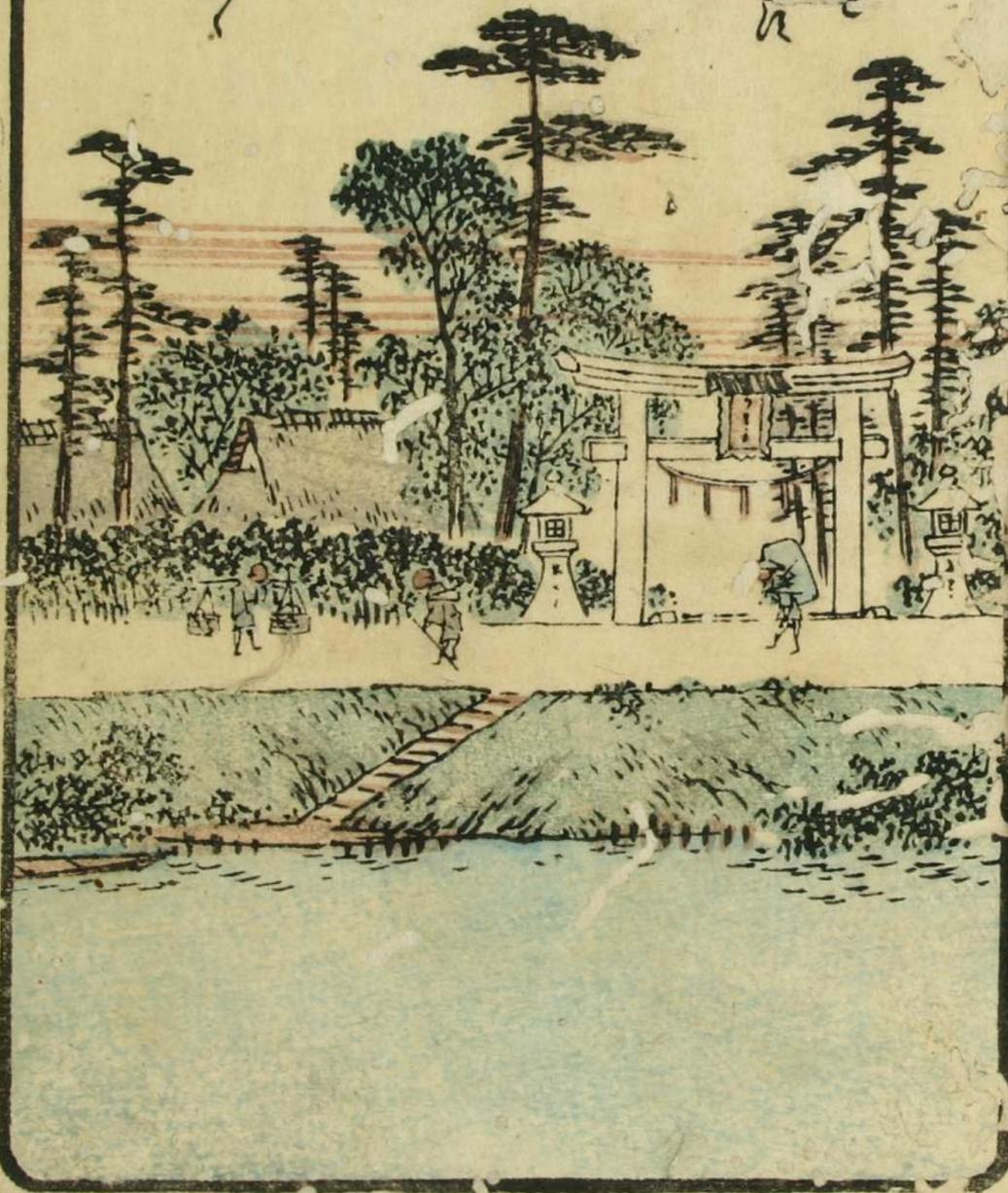
のち

り

浪

れ

歌城



より渡来し給ひ津國御嶋に空江と云

片葉蘆 富社の神籬に片葉蘆一説に川辺の芦に濡れし水は自然と片葉蘆となり又其性よりけり芽立ちより片葉蘆を生むるゆゑ多し

玉川 三島江村の西の方西面村の田畔の中ニあり名所六ツ玉川の其一なり

玉川 土人云中秋の月此流水よりくる時ハそのうゲニツまらぬゆゑ

和歌 和歌より玉川の里と云く海あり 卯辰 時辰 樹衣 月夜 氷柱 氷

露 時々うね里玉川の川とて夏の頃根とて川に白き 定家

集 見とせむ波の柵あり 卯辰 時辰 樹衣 月夜 氷柱 氷

歳 風つとてふ秋のうねり 卯辰 時辰 樹衣 月夜 氷柱 氷

柱 三時江村の下にあり一橋のありし時中の川敷にあり旧跡

淀川の流あゝの辺り 上牧村あり共ニ変喜式ニ出

またゆく通船のさくさく さくさく

是と流く水尾串と云く水路の便と云く 見

客の聊の助力と云ふれば 客の聊の助力と云ふれば

錢と出と云ふれば 夜船ハ各熟睡すれば河堀の男がせり

声と云ふと云ふれば 材布の口と開くゆゑ

是と遁んとする白痴あり 正直の乗合ありと員へて

浅き川に舟を渡す、河塘の男は渡りて此船中の風俗

○鳥飼

柱本村の下に此所より河別を南下郡との  
水上凡十五町上も舟より平舟舟を水上凡三十二丁とあり  
此所より大河へ陸路行程三里

散木  
あまのめはるの船とてさきさき舟をさすつる也 俊頼

鳥養宗慶跡 右上村より今一其苗孫でたり

宗慶の鳥養氏當村の人なり書と能く世に名高し初め御家

流とてさび後一家とあり是とも養流と稱し後と宗嘯とあり

十市六部少輔遠忠同第遠き又貞徳の又永種捕長譜  
飯尾市氏より鳥養流の名家なり

馬嶋

鳥飼の前 茨川の中より長サ一里ぐりりあり

鳥飼御牧 右馬島期

延喜二十九年諸節及行幸應用國飼御

馬者勘量須數奏聞乃下官符令進唯牧放飼馬者寮

移當國即令牧子牽送 但攝津國鳥飼牧豊嶋牧 凡國

飼御馬者攝津國十足 右寮 又同式曰 攝津國鳥飼牧 左寮

土佐日記云二月八日夕茨川のりりたる舟をさすつる舟の舟投とあり

鳥飼渡口

藤社神祠

下鳥飼より河別茨田郡仁和寺村茨川とては舟をさすつる舟に仁和寺の  
藤社神祠とて西村にあり此地五ヶ村の生土村と山別岩の表崇道神敬天皇  
と勧請の河系九月九日同所より三本松天満宮と稱す

のり菅公流紫と舟下向の... 六月廿五日又き... 松美經松踊...

○輪道

同下... 柳島... 輪道村の前... 輪道村の

○一津屋渡口

島下郡一津屋村より河川... 八番村より渡川...

神寄川

一津屋村の傍より渡川の流... 西に分れ吹田神所...

江口渡口

右津河川より一津屋村より江口村への舟...

渡舟之儀昼夜令弛之... 津分除之若撰後存之...

元龜元平九月

信長判

江口村 船頭中

○江口

右津河川の南の岸... 西国より...

泉州堺の津より... 天正年間より大坂海内の大隈...

菅家

川末の江口より... 菅家の

君堂

同村より日蓮宗宝林山寂光寺普賢院と号し...

江口君像

本堂より長き尺をより座像... 又什室より西行...

山深

山深く... 哀れ...

西行



草まふも

心とあはれ

花あつら

魯白

君堂や

ぬらち

つとめ

をのめ

吳逸

きつり

〇  
三  
二  
九



えがら  
江口

きつり  
奇墳

きつり  
君堂

君堂

〇  
三  
二  
九

逆巻  
橋寺  
新川

ひらき  
たんき

海

柳

山川

逆巻より平田までの

向波川の内の流儀

のそ川條二條

より川を新川といふ

此の川は新川といふ

川とて水尾串とて

通船とて舟も舟楫も

同様のものなり

石の地を流るるは

水死の供養とて



下り  
九

江口城墟

江口の村甲 田中氏の家其古跡ありとぞ  
天文年中三好宗三ここに城を築きしなり

哥墳

同村南の堤より新古今贈答の和哥と石刻とを建す  
北の方へ西行法師の墓南の方へ陸女妙の墓と

天正寺へまゐりて修すふに...  
のりや...  
西行法師

新築

世の中...  
西行法師

司

世より...  
北女妙

江口尼古蹟

見へり...  
西行法師

辻堂

西成郡辻堂村より河川...  
下より

南八道

南八道村の下より  
世俗...  
南八道村の下より

逆巻

南八道村の下より  
北八道の属邑  
逆巻村の下より

平太渡口

揚州西成郡平太村より同東生郡今市村へ渡川と...  
今市の...  
云平太より大坂へ約程九二里

三番

平太村の下より江口より  
此所より水九三丁云  
三番村の下より

二重新家

此所より水九三丁云  
三番村の下より

紫嶋

字義詳るる一説に...  
紫嶋と書るる語と訓多し

晒堤

紫嶋の堤より...  
晒堤と書るる語と訓多し

白坂

晒堤の堤より...  
白坂と書るる語と訓多し

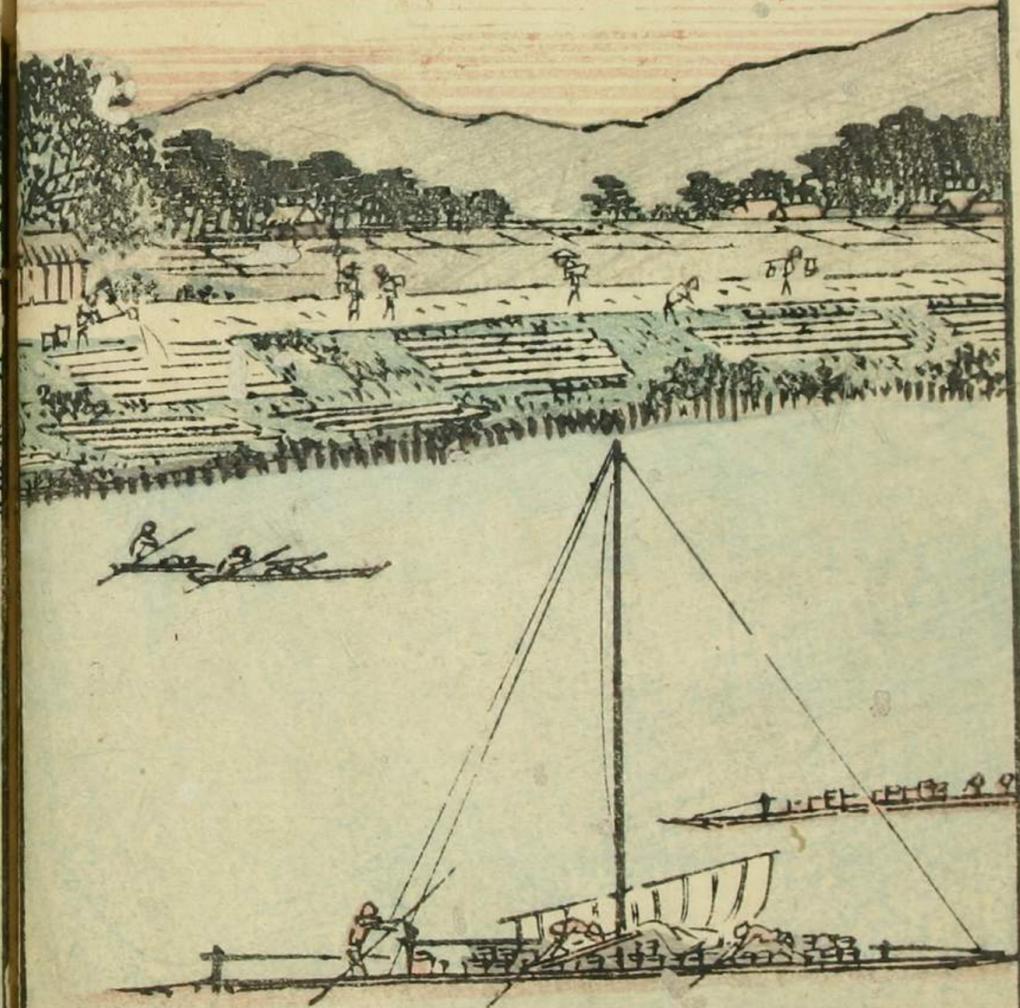
世に

世に...  
世に...  
世に...

菜嶋  
晒堤

半篙春碧  
滑無聲坐  
撫青山遞  
送迎水路  
日長人易  
困雲間喜  
認出金城

嶋掠隱



玉川の舟の

花つふ

くさぶたの

こゝろの

布の白鳥

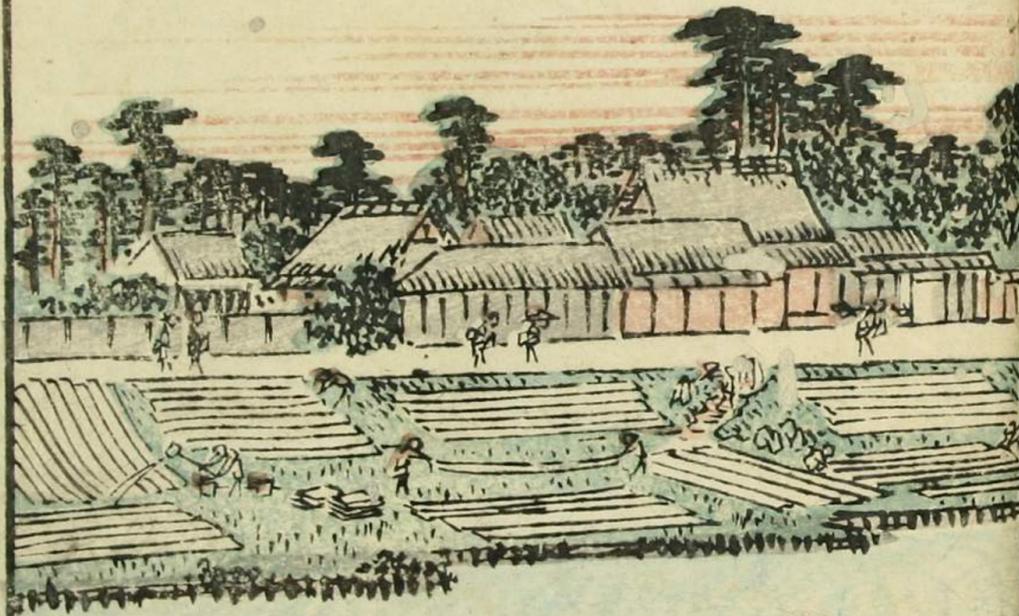
結成

下萌や

つとろの

船の跡

芦泊



二七

長柄川 柴橋村の下にあり一名中津川と云ふ後河第二の支流なり北長柄村より西に  
長柄渡口 薬師堂村より北長柄村にあり舟に乗り渡り長柄村にあり  
二重新築より西にあり水上九二十五丁あり

陽をよむしあ ぬらう橋とあり 来山

○北長柄 右川の南にあり是より大坂へ行程を里南村に教地堂の旧跡あり

長柄橋跡 此橋の四趾古来より詳しむべし其の世は繁きやゆれの世に  
振らぐれん是又も明るべし

接ぶるふ上古の大物浦より東北に里南に福島浦に曾根崎より

北に神崎川まで一面の大沼あり是程は大沼の名あり是を難波に

難波入の難波の浦三津に神津浦と和名は海れり其

のの中は嶼々多あり今村里の古名の遺るもの多し所謂南中

嶋北中嶋の中は橋本柴嶋濱川口小嶋等々水邊の郷名あり

長柄橋の孝徳天皇 人王 長柄豊崎宮の御時より彼嶼々架りて

皇居への通路とせり今譲り長柄橋の長サ一里あり

言傳くは是一橋の名ありびし嶋より橋へし

其橋の數許多あれども地名より皆長柄橋といひるは

古来より今も北長柄より豊嶋郡兼水庄に至るまで長柄の

橋跡と言つてこれぞ橋杭と稱する朽木新くより堀出の事あり

長柄三ツ頭

長柄川

同渡口

きしきと

アトと

本橋よ

柳もる

我黒

けしきも

あしと

きしきと

きんりの

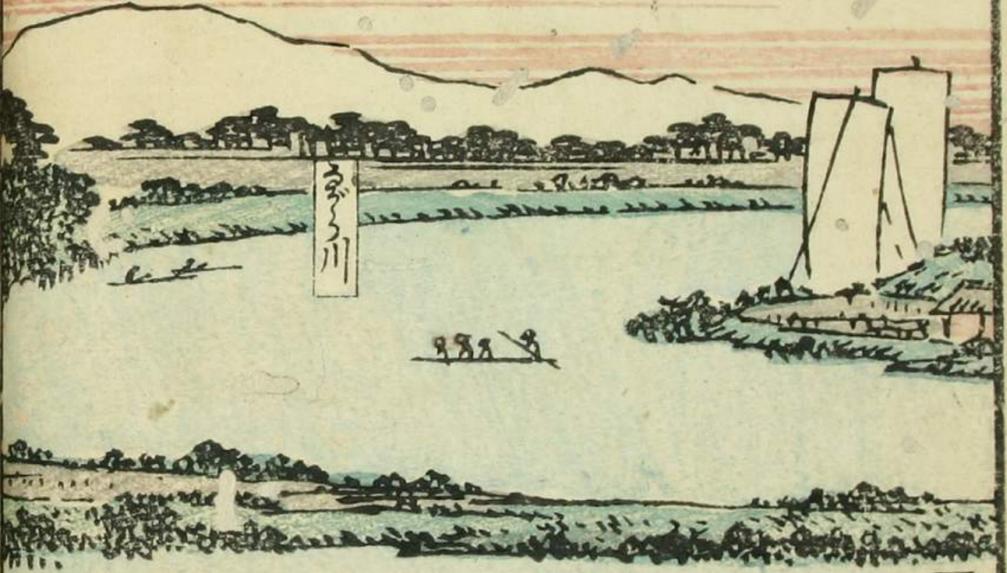
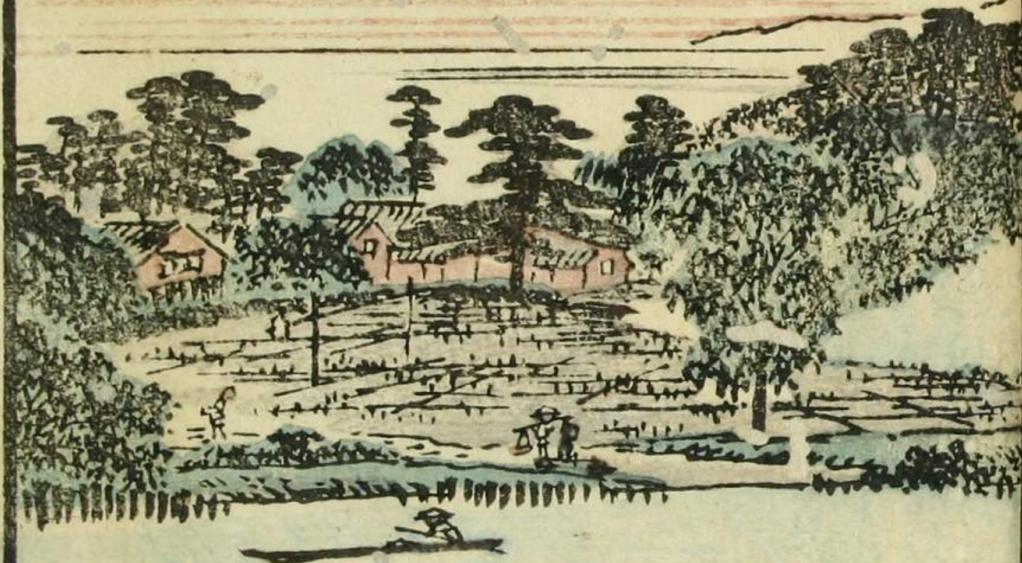
けしき

かた

きしき

き

江戸  
行成



三ツ頭

淀川

けしき



其の一挙を以て是とて一築の痛をうらむと知づ。長柄豊崎宮  
 孝徳天皇崩じまをひし後、大和國飛鳥宮に遷都し、橋の  
 修理も怠り、風威の時江海激茫し、落損じり、夏多うりし  
 其後、嵯峨天皇 人皇 御宇弘仁三年夏六月再び  
 長柄橋と造らし、後世に逮ん、神寄川長柄川天満川と  
 水路分り、江海あり、田圃と變じ、今の如く村里  
 あり、粟田變じ、海とあり、大なる益あり、  
 粟 粟ともいふ、名は長柄の橋に巧む、今の人もあはれ、定家

毛馬渡口 東生郡毛馬村より西成郡北長柄村へ渡川と云ふ舟あり、  
 渡の長サ百九十間ト云此舟は煮賣舟なり、ねち同

○南長柄 北長柄村の下にあり、村中の北田圃の中ニ  
 尊像あり、有未由詳

鶴満寺 南長柄村より天台律宗 本尊阿弥陀佛 四尺許  
 雲松山慈洋院と号す 本堂の西に秩父坂東西國寺の巡礼所と云、  
 又堂下と其國の更場の土とあり、布を建てるあり、

観音堂 長門の國土毛利侯より寄附たり、住昔城下の地主中より堀出たり、  
 針銘彫銘あり、原の異國の器物より、針銘云大平十年二月云云

梵鐘 境内に大樹数株あり、花の盛りに、結託して、騷人墨客打ひれ、  
 同流し、乘り、又此様の傍に鬼貫の墓、蒼鷺の塚あり

系櫻 國分寺村にあり、眞言律宗 本尊阿弥陀佛 聖徳太子御作  
 座像長三尺五寸許

國分寺 正岡山金剛院と云ふ 同東の傍にあり、  
 當寺ハ國毎の國分

不動堂 門内の西傍にあり、地藏堂 敷石地藏と云ふ

赤不動尊と云ふ

木村堤  
樋之口

櫻宮行衆

正花多天

語聲流春

夜波紅燭

青簾行處

客猶荷遊

舫在橫坡

嶋棕隱

殿道よ

ゆき

あはれ

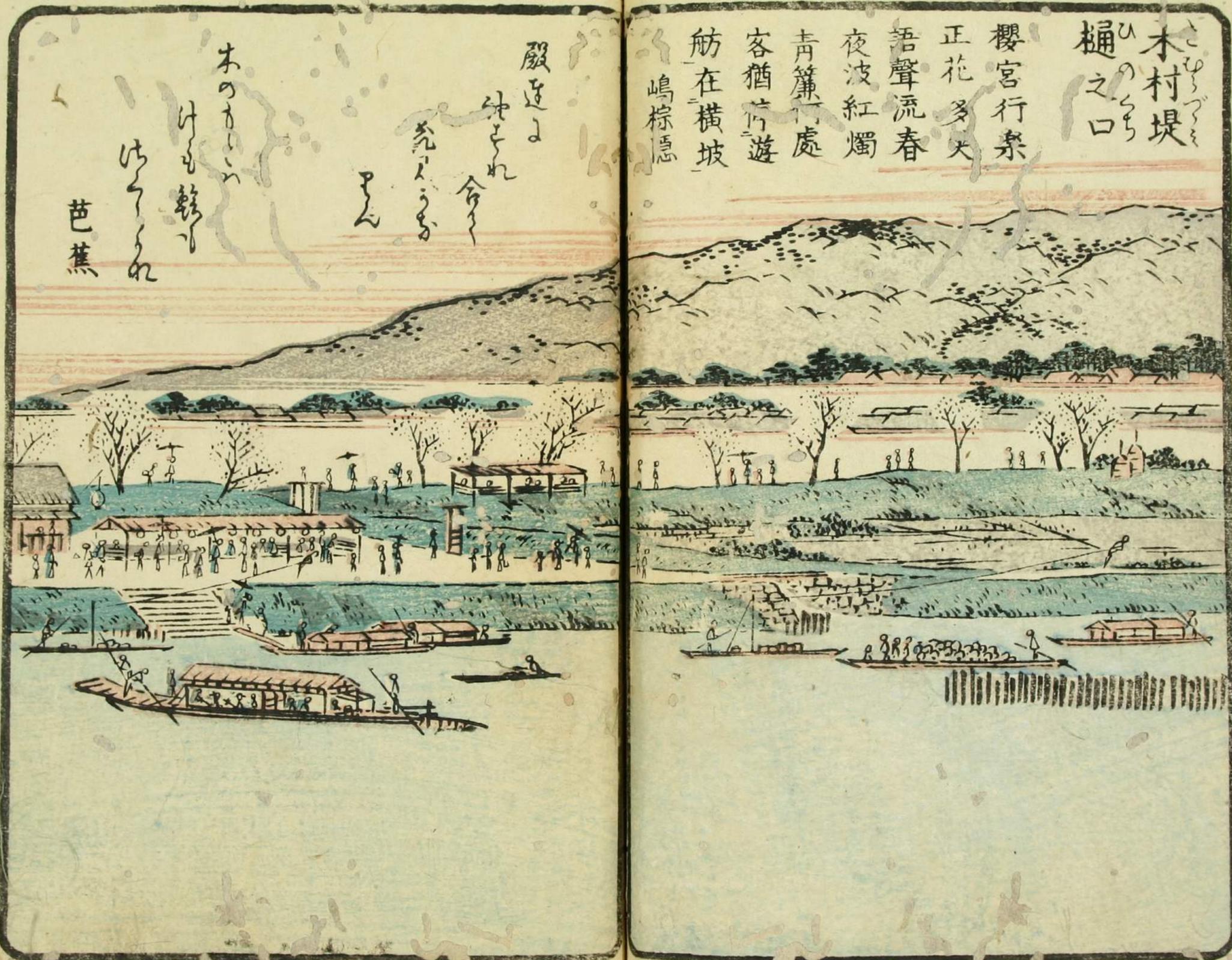
あはれ

木のこゝろ

けしき

ゆき

芭蕉



其二

上への船へ換船と云ふ  
三月十三日より九月十日  
まて候にせらるるに例と  
されば年々とも福客に  
まをきて河風の邪も  
あさねまをてとるれと柳  
作りの丸船と云ふ  
こそ



骸骨の上で

よつと見え

さ〜〜ぬまが

ゆひ〜〜

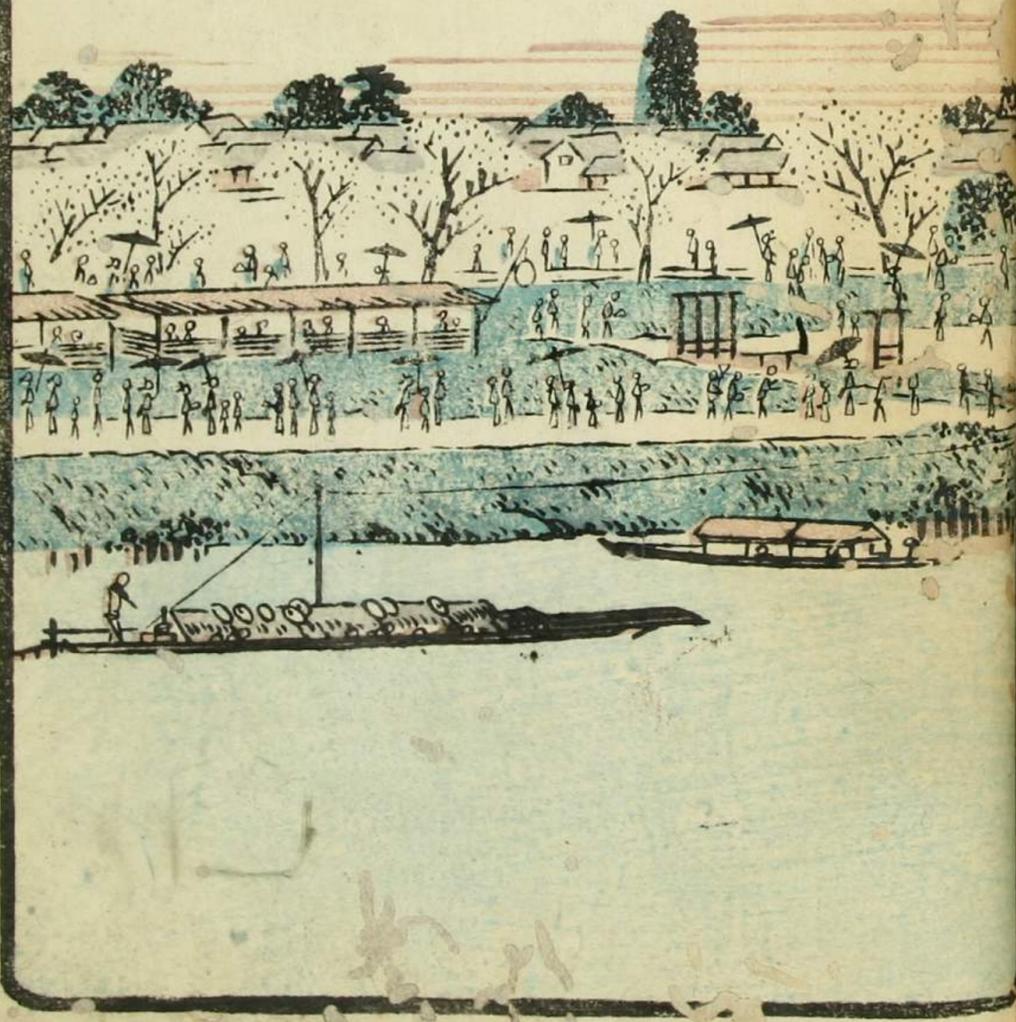
半休

川舟  
下へ着

〜〜

あ〜〜の

〜〜網



川舟  
下へ着

寺の其一箇寺にて本願の聖武帝開基の行基僧正より荒無  
の役快圓比丘中興し律院となり国分寺料より一萬辛  
料の施料の事延喜式より文德實録にも見たり後世廢  
し今僅に存せり又東生郡にも国分寺あり何れ一箇寺か  
国分尼寺の旧蹟も後人尚考ふべし

○国分寺

南長柄村に隣り則ち  
右国分寺の村里あり。濱の源光寺鬼子母神堂権現松の此所の西にあり

樋之口

国分寺村の下にあり天満堀川は淀川の流れと通じり樋の口あり  
近年崩壊せりやれ川をせり堤の下に天満宮の祠あり  
右樋之口の堤より此地は淀川の西にあり同分寺村の辺より

源八渡口

樋の口の下にあり西成郡天満原より東生郡中野村へ淀川と  
中野の邊にあり水上八十四間ト云

○川崎

御藏印材木藏印屋敷方川岸に建列せし此所は萩とあり  
洪水の時下り船は皆ひたし客とあり

北長柄三ツ頭より西にあり水上凡廿五丁とあり

川崎神宮

東傍にあり  
元和年間松平下総侯創建給ひ三江

和尚寺發し九昌院建国寺と号し禪宗洛陽建仁寺に

属し御例祭四月十七日此日雑人の集會と許し是より

浪花市中の言も更なり近郷の貴賤群集し川岸み出

源八渡口

碧波蕩々

拓堤流風

冷櫻林搖

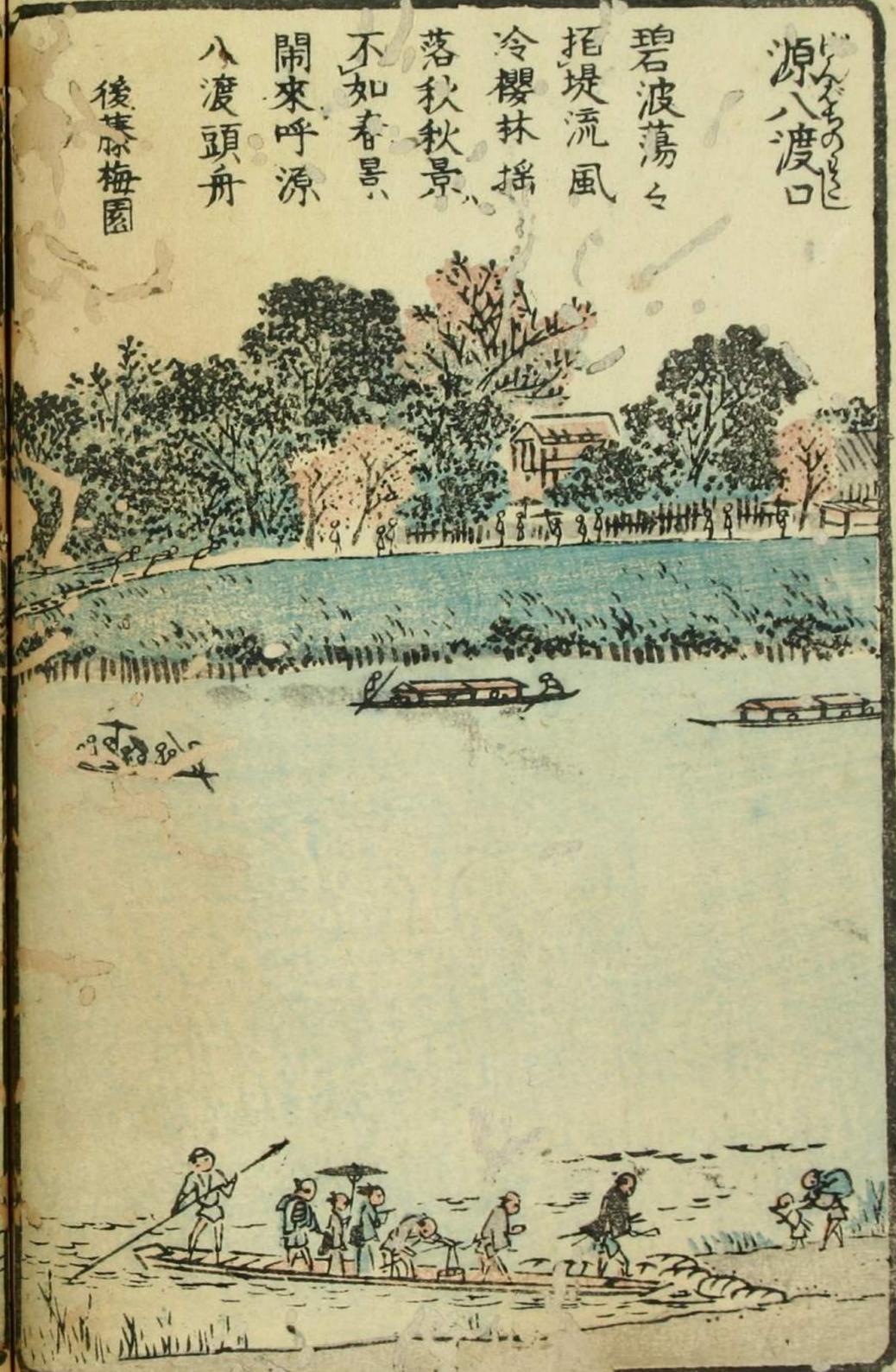
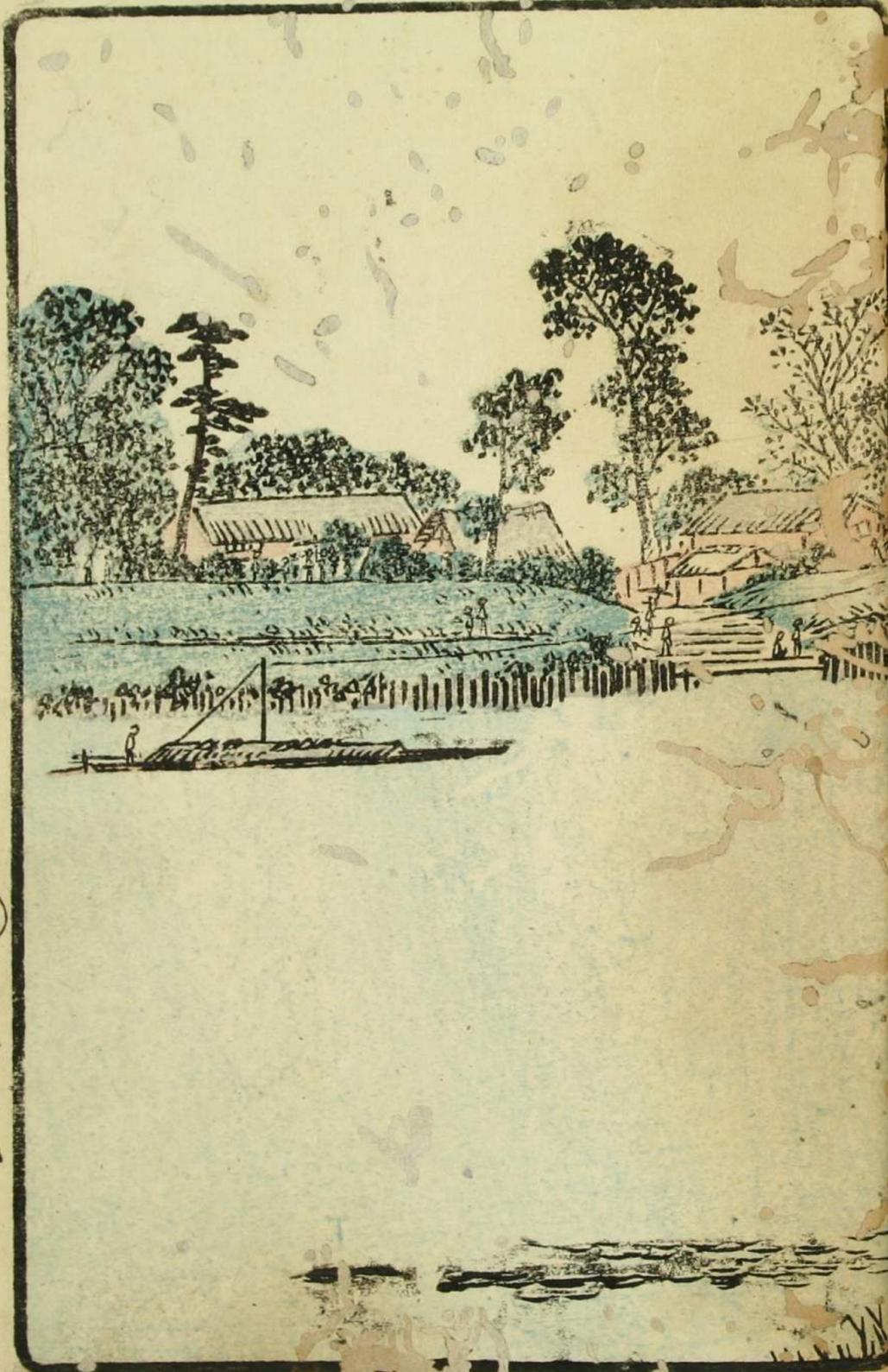
落秋秋景

不如春景

開來呼源

八渡頭舟

後集梅園



下リニ  
一  
九

下リニ  
一  
九

遊宴し渡船し舟にて東堤に我松宮小舟をり或は東堤より

西に渡りし多緒とありて兩岸の賑ひ言語小絶せり

さる程に堤の懸茶店つらり貨食店菓子賣とらり

童の手遊お花かんざし鬻ぐ男を所せたまき訂群

恰も舟のりゆらぐ如し首夏第一の大紋日なり

川崎渡口 天満川寺町の渡より此系橋は渡川とて舟船とて舟系舟より

監船所 川舟より渡川船方の老所

天満川北詰 乃南二丁目南詰ハ京橋ニ

此橋下は川の流れ西に折れ

力と尽しく棹を下船の押流し舟と船とまきして大切下り

是と艦下り 淀の小舟も又同じ懸るんやまらて船

依然草曰高名の木上りと言し男人と提ぐるおよ上せて梢と

浅せし甚危く見へ程の言ふとも下り時軒け許み

成り過ぎふ心してとらりと言系と掛らりしと斯る成てり

危下りも下らん如何か一言ぞと申侍りし其事し目

らるる枝危き後ハ己がそれ信れが申る過ぎりて成て

川崎濱



船酒人

中条

花さうり

分

花

中條

花情

花情

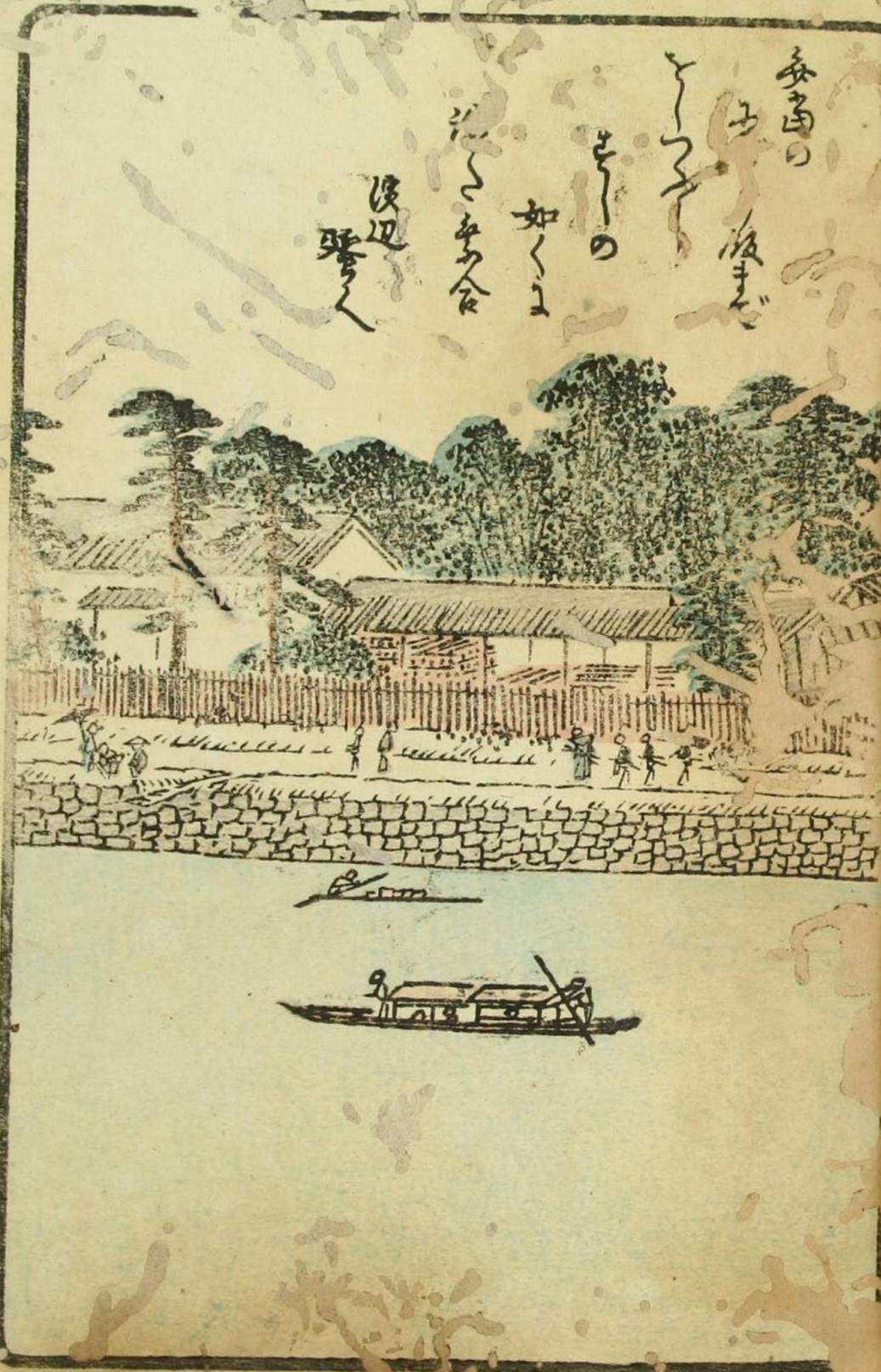
花情

川崎濱

其二  
 御材木  
 秋橋

十星流澌送野  
 阮鏡以夢後拂  
 春霜江南韻蹟  
 梅花在向客依  
 依吹古香

嶋棕隱



委曲の  
 子  
 如くよ  
 波迎  
 驛人



必は仕る事いひしや中々下痛むれも聖人の言いあかき  
鞠もかき所と蹴出して後安ん思ふ必は落し侍るやん  
易繫辭曰石子安んれも危きと忘れ存んれも亡んこと  
亡んれも危きと忘れ存んれも亡んこと  
任んて一と実や高木よ上る者の言いあかき下船水立  
楫取も又是は同じ淀川の長流と下り既ハ軒家の見ゆる心  
いひしや則必は過ら有てたし此の言いあかき切なるは  
所理する船や船の着しと競べ心とありて過らるべ

菜菔場

天神橋北詰より東へ三町  
の間の間北詰より西と市の側と

菜菔場 天神橋北詰より東へ三町  
の間の間北詰より西と市の側と  
場の日々朝毎に菜菔と高きと春の初の初市より暮の  
初市は一日も怠る事なく賣買市人島のつくは集ひ  
講い如く華る其盛るるて甚し  
原此市場の京橋南詰にひき  
く有しが慶安の頃其所御座  
る京橋小浜片石町より  
然るに商人の往来より  
免され今の洲より  
正面通と  
天神社 右市場の北より  
正面通と  
本社中央 大自在天神 相殿  
東二 手力雄命 西二 猿田彦大神  
東三 法性坊尊意 西三 蛭見尊  
其社頭より本社多く神輿庫 宝庫 文庫 繪馬舎 廻廊 窺たり

りつものつらむ  
市市場

天神橋

世習滔々趨後本

驚異競相誇

詩人欲賦苦無夜

九月 孫十月爪

廣瀬謙

と絶てハ

そら風と

市乃例



八軒家

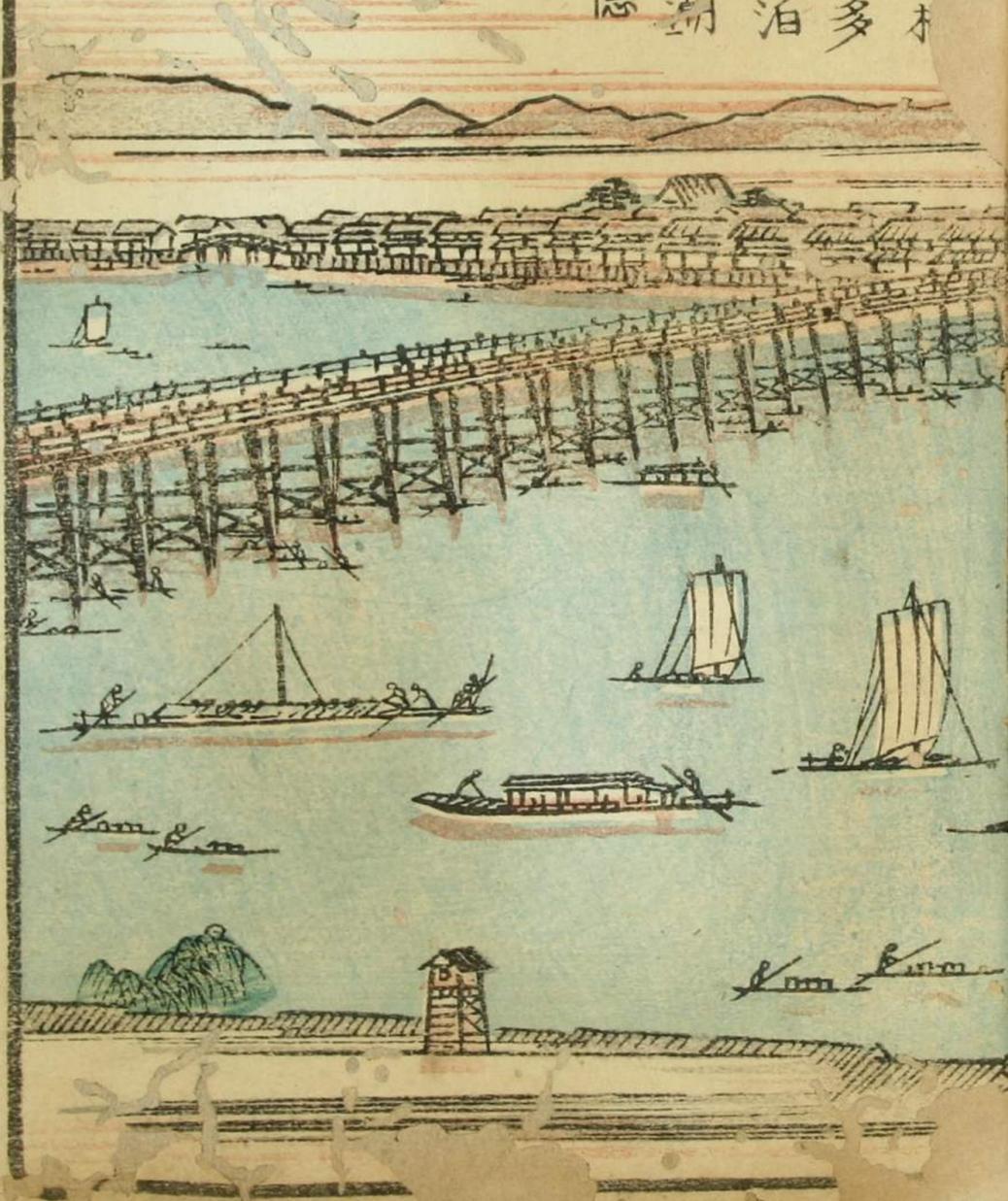
石ヶら一木

鼻地夜猶多

舟船隨處皆堪泊

筒々樓燈照暗湖

嶋掠隠



下り二七四



地 往昔北西へ續き、松原より一が 村上天皇 天皇 天曆年間

勅願より、初め、建立し給ふ所なりとぞ故に天神松原と稱す

森もと古書に見えり地名と天満と号ほりて、天満宮鎮座

給ふ故なり程に靈驗ありたるれば四時、詣人間断す

群集す社内より昔、喇りひの軍書講釈の小屋地

放下師品玉経業の藝新内祭文流行歌の讀賣植木店

萬葉類手抄貝の物なる地をせりて、到りて、賑へり

貨食家煮り、餅屋、餅屋、餅屋、餅屋、餅屋、餅屋

唐守車とるて、繁昌、御八皆、官神の余光とつ

例祭六月廿五日の鉾流りの神事と号して神輿戎嶋の行

其壯観の美景なる事、世俗昔く知る所なり又九月

の神事行り流鏑馬の式ありて殊に賑をり

就中正月の初天神とて、祭系街に元酒

と立るの土地あり、所謂早春の天鼓日なり

天神橋 北詰の天世、丁目南詰の京橋六丁目より、川上より、第二の大橋

長サ百二十間三尺

北詰の地詰通の丁目條と号し、夫より數の町くと経て長柄の

淀川通じき 山寺と過く京師に至るの街道より且近郷  
便宜の道路より諸商家軒とるる萬端のとりつた大なる事  
得よ結人遊客のび諸色のとりつる農夫天満宮の諸人街  
混み 終日閑静の時とあるは室に浪死北方第一の繁華なり  
前結の東ノ軒家の船岸として是又昼夜のりん賑ひ 此所  
より舟の出入此よりゆへ故に船客のりく 是より上陸は又  
東堀道頓堀の船の橋の下より東堀と下は北濱西横堀の船の  
大川と下は畦味場の船の尚土は城と西は下る船客のりく

其の宜しき 無憂の着岸 くと甚愛度し 尚難波  
岸の風景のありく 著せざる 爰に筆をとるむ  
奈 心あらん人の見せざる津國の浪波りくらの若れく 能因法師  
淀川條道法

後橋より淀小橋まで一里七丁十間 ○淀小橋より江口三頭まで壹寺里間  
江口三頭より長石三頭まで二里二面間 ○長石三頭より天満橋まで卅五町八間  
天満橋より木津新里まで二里二面間 ○淀水車より大坂原橋まで水勾塔  
八丈四尺五寸五分  
淀川兩岸一覽 大尾

華

曉前鐘成晴翁著述

同

松川半山畫圖

皇都

鎌田醉翁傭筆

宇治川兩岸一覽

曉晴翁著松川半山画

中本全二冊

萬延元年庚申季夏再刻

發兌

江戸日本橋通一町目

須原屋茂兵衛

勢州津八幡町一町目

丁子屋清七

大坂心齋橋安富寺町

秋田屋太右衛門

心齋橋南久寶寺町

伊丹屋善兵衛

后心齋橋北久太郎町

河内屋喜兵衛

后心齋橋北久室寺町

敦賀屋彦七

京都三條通堀西入町

出雲寺文次郎

同三條通寺町東入町

丁子屋耕文堂

同六角堂之前町

丁子屋源次郎版

書林

